令和7年度　　第 2 学 年 経 営 案

【在籍数】男子 59 名、女子 31 名、計 90 名
【学年主任】 堀江理枝

《学年の実態》
中学校生活1年が過ぎ、生活習慣は概ね確立されている。規範意識が高い生徒や、コミュニケーション能力の高い生徒がいる中、特別な配慮を要する生徒が多くいるため、様々な場面で配慮する必要がある。学習において意識はあるが、全体的能力は低い。

1. 学年目標
「自覚と責任」
・中学2年生としての自覚をもち行動する
・発言、行動に責任をもち行動する

1　学習指導『学習意欲を高め、自己調整力を養う』

○授業規律の確立をめざし、安心して学習できる環境を作る。

○家庭学習を推奨し、基礎・基本の定着を図り、学力の向上をめざす。

○教科担任と学級担任の連携を図る。

○「やればできる」という達成感を味わえる学習活動を展開する。

○家庭学習の習慣化を進めるために、良い学習方法を学年・クラスで紹介する。

○全体のレベルアップを図るため、教え合い学習、協働学習を推進する。

2　生活指導『自主自立の助長』

○学級委員会、班長会の充実を図り、生徒の力でよりよい学年をつくらせる。

○教師相互の情報交換を密にし、生徒理解に努める。

○毅然とした姿勢で指導にあたり、善悪を正しく判断させる。

○挨拶・礼儀を大切にし、公共の場での過ごし方を考えられる生徒を育成する。

○適材適所を見極め、リーダーを育て、生徒相互の自治力を高める。

○休み時間はできるだけ、教室や廊下にいて、子供たちの様子を見守る。

3　進路指導『自己実現の土台を固める』

○3年間を見通した計画的な進路指導を行う。

○自己をよく理解し、将来の進路についての関心を高め、進んで自己の進路を計画する生徒を育成する。

○他を認める力を養い、周りの人から多くを学ぶ力を身に付けさせる。

○全ての生徒が前向きに進路実現できるように、情報提供を早めに行っていく。

4　行事指導

○生徒の主体的な活動をすすめ、充実感・達成感を味わわせる。

○一人一役を徹底し、学年集団の一員としての自覚と責任をもたせる。

○教師自らが行事を楽しみ、生徒と一緒になって熱い思い出をつくる。

5　保護者との連携

○信頼…保護者と信頼関係を築けるように迅速・誠実に対応していく。

○理解…学年の基本方針の情報提供を適切に行い理解してもらう。

○協力…「報告・連絡・相談」を徹底し、学校と保護者が協力できる体制をつくる。

3. 指導の重点

(1)服装、時間、挨拶、言葉遣いなどの集団生活のルールの指導を学年教員が同じ指導方針で行う。
(2)錦中コンテストをきっかけに学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。
(3)総合的な学習の時間では、生徒が自主的に課題を見つけ出し、学んだり考えたり判断する「探究活動」を行うことで、課題解決のための資質や能力を育成する。
(4)職場体験、錦中ハローワークなど進路学習を充実させ、第3学年での進路選択に向け、考えを深め、すすんで自己の進路を計画する生徒を育成する。
(5)i-checkを通して学級集団、個の実態を把握し、学年経営・学級経営の充実を図る。

4. 経営方針の具体策

(1)学力向上
・真剣な授業態度の確立と家庭学習の習慣化で、基礎学力の定着を図る。
・最後まできちんとやり通させる粘り強い指導にあたることで、学習への取組の重要性を再認識させる。
・タブレット端末を活用し、自らの考えを表現する活動を充実させる。
(2)豊かな人間性の育成
・生活指導は学年教員全体であたり、いじめは絶対に許さないという強い姿勢を生徒に意識させる。
・行事・ボランティア活動に積極的に取り組ませ、生徒の自主性・自治的能力を高めることでリーダーを育成する。
・週末会議を通して席替えを行ったり、班での活動を重視したりすることで、リーダーの育成を図る。
(3)家庭との連携強化とともに地域や関係諸機関との積極的連携
・学年だよりを月に2回は発行して生徒の活躍を伝えるとともに、啓発活動を行う。
・職場体験や錦中ハローワーク等の進路学習を通じて、自ら考え、自らの手で進路を切り開く指導を行い、家庭にも協力を要請する。
・特別支援コーディネーターと協力して、SCや子育て支援センター等の外部機関との連携を密にし、特別支援の体制を充実させる。